

第2回学校運営協議会

いっしょにがんばる第三小



立川市立第三小学校

令和3年11月22日（月）

学校経営方針

グローバル時代を生きる
知徳体のバランスのとれた
子どもの育成

【学校経営の3つの柱】

- ①連携・協働
- ②発信
- ③自己肯定感

「知」＝学力向上 ⇒ R3～5研究

(この後、詳しく)

「徳」＝心の教育 ⇒ H27～29研究

(道徳授業の充実、いじめ・暴力・QUなど各種アンケートの実施と活用、「エールオクトーバー」⇒教員や友達同士の前向きな声かけで自己肯定感を育む など)

「体」＝体力向上 ⇒ H30～R2研究

(昨年度までの3年間の研究のレガシーを生かした体育授業、わんぱくタイムの継続 ⇒ 2年ぶりの体力テストはコロナ禍にもかかわらず市内でかなりの高水準)

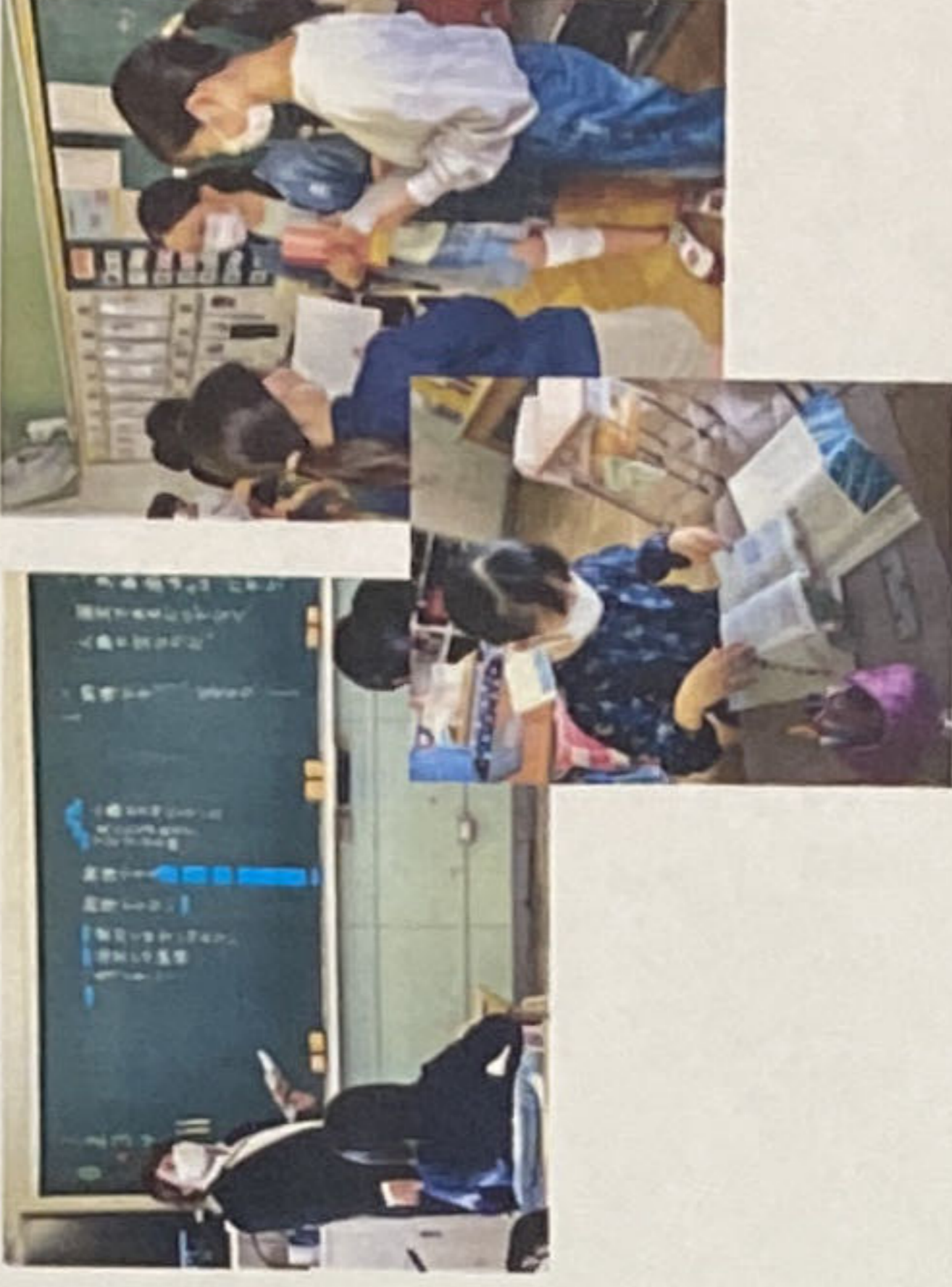
今年度これまでの学校経営方針実現に向けた取組から

- ①国語科研究を通して学力向上
- ②教科担任制
- ③GIGAスクール(タブレットの活用)
- ④市民科教科化へ
- ⑤SDGs
- ⑥多文化共生

①国語科研究を通して学力向上(校内研究)

- ・「読解力」と「書く力」の向上
- ・対話的、協働的な学びを(自分の考えに根拠をもって説明し、意見を交流させ、納得解を目指す。)
- ◎1学期は全教員が指導案を作成し、実践。2学期は全教員の国語授業を観察、研究授業も実施中。
- ◎低学年なら「私は～だと思えます。なぜか」と、～だから」と理由を添えて意見発表し、中・高学年ではそれを交流させ、そして相手の立場を踏まえて対話する姿が見え始めている。6年生の研究授業では「たしかに～の考えはわかるけど、私は～だと思えます。なぜなら～」という話し方ができる子も。
- ◎辞書を活用して、自学自習の態度を

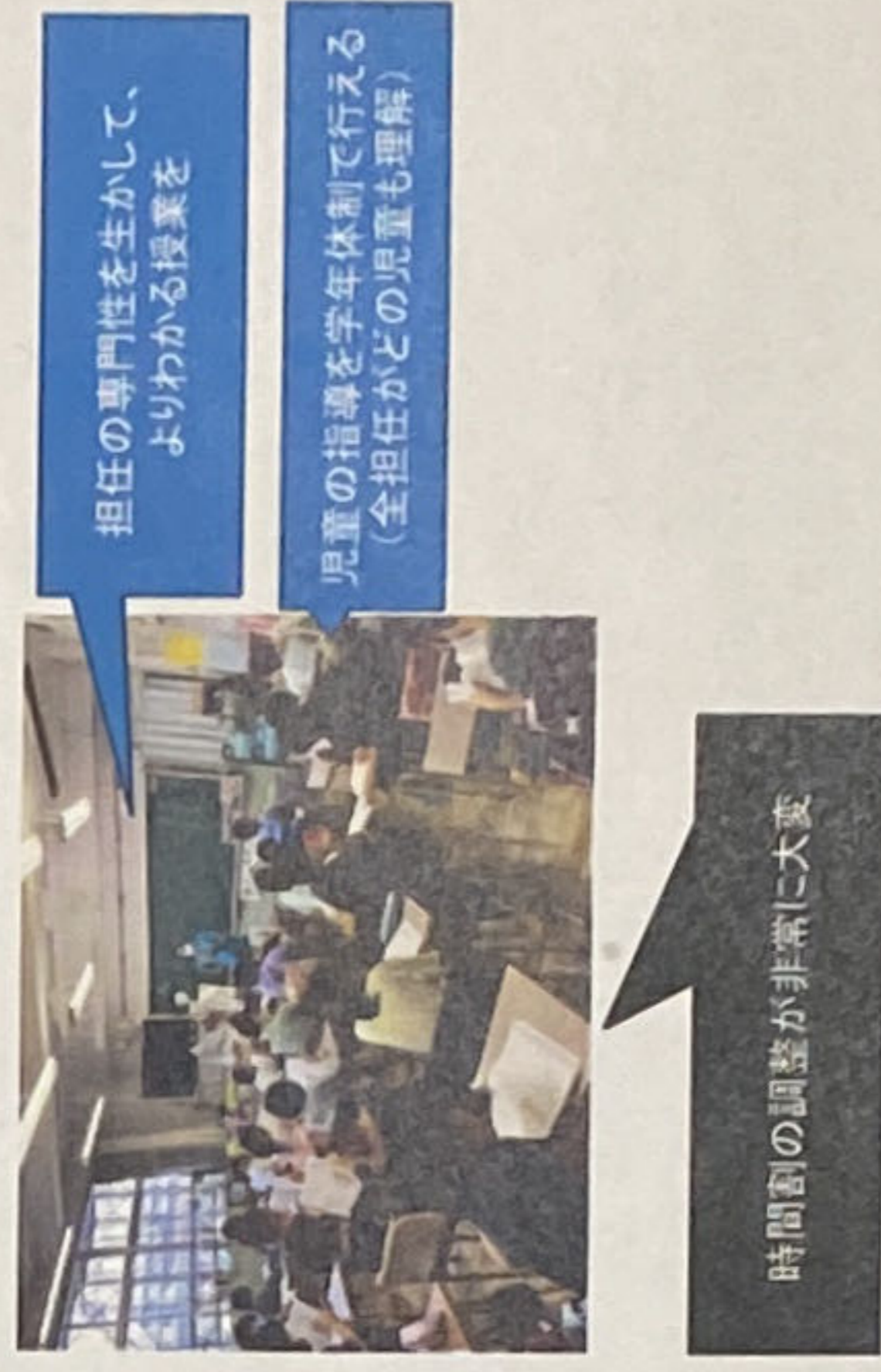
国語研究



②教科担任制(校内研究)

- ・来年度から本格実施→三小は前倒しで
- ・小学校5・6年生で開始(3人の担任が「体育」「社会」「家庭科」を教科担任制で指導。加えて音楽、図工、英語、理科も専科が指導)
- ◎教師の専門性を生かし、より「わかる」「できる」「楽しい」授業ができる。(「誰一人取り残さない」)
- ◎学年・学校全体で子供を見守り、指導ができる。(運動会や学芸会、宿泊等の行事にも効果あり)
- ◎教師の負担が減る。(働き方改革にもつながる)
- △時間割を組むのが非常に大変....。

教科担任制



☆6月の児童アンケートから⇒90%の肯定回答

③GIGAスクール(タブレットの活用)

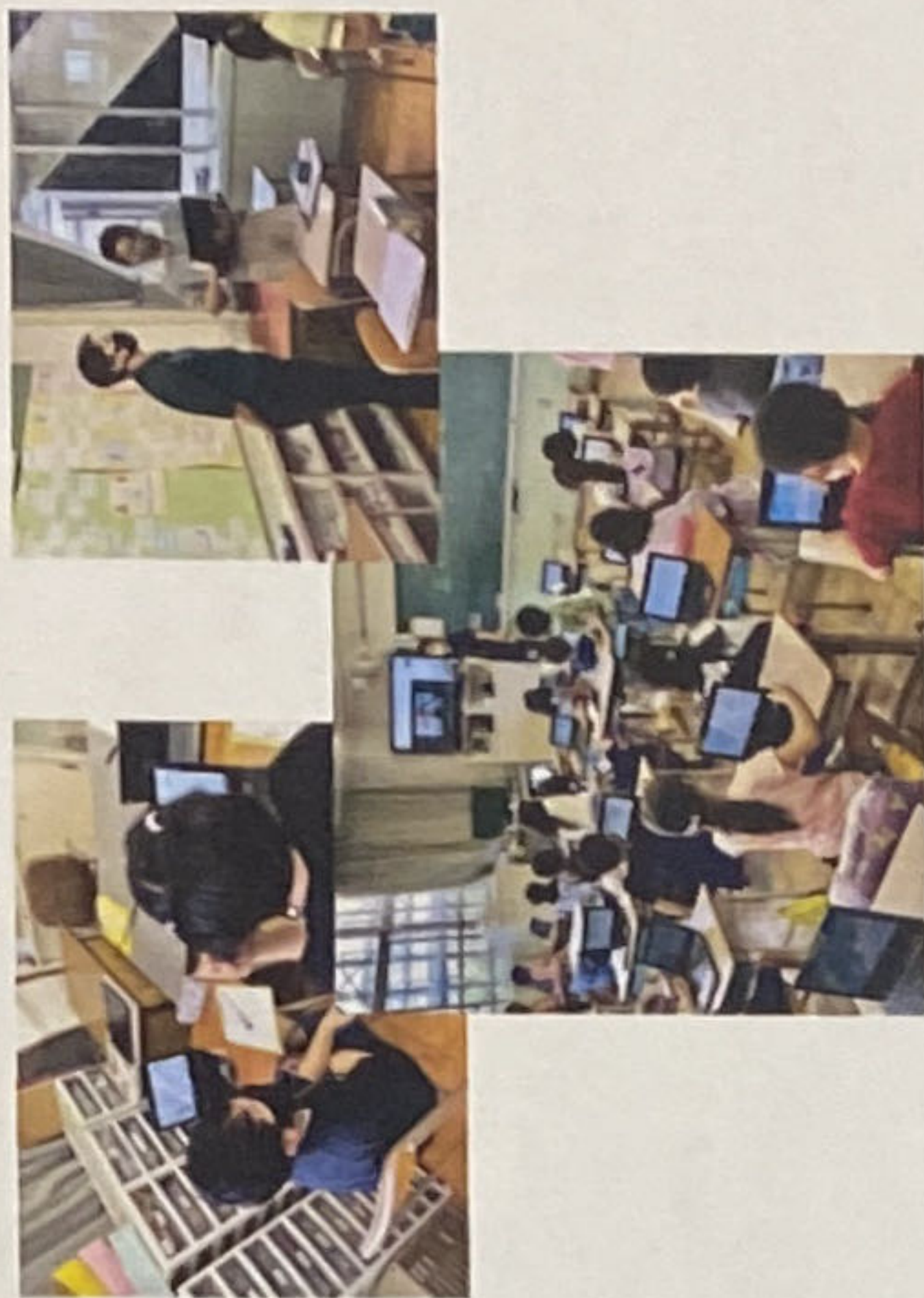
◎授業中、家庭学習、長期休業中にも活用。コロナ不安欠席や臨時休業にも対応可能。

* 対話的・協働的な学習とのバランスに考慮⇒**タブレットと対話的な授業でハイブリッド型**

◎ICT担当教員(＝通称「GIGA兄弟」)を中心に研修を重ね、教員の活用能力も向上中。(朝会や集会、夏休み中の健康観察に活用、欠席児童の家庭に授業配信、オンライン公開、今後は学校評価アンケートもタブレットで回答等、絶賛チャレンジ中！)

△マナーやエチケットの指導も必要。(町田の事件から不正な書き込みにも目を向ける。子供たちを守る。)

タブレット活用



④市民科教科化へ

・市民科の柱は地域連携！

1年：交通安全教室 2年：野菜作り、町探検

3年：自転車教室、七輪体験 () 4年：福祉授業

5年：バケツ稲 6年：地方自治 などなど

◎今年度新たに

「錦町アート」...おかげさまで2学期より10店舗に展開

「This is my town」...わが町立川を五輪選手に紹介

◎学校や教員だけでは味わわせることができない「ホノモノ体験」が充実。

◎SDGsの視点を軸に教科化への対応を。

* 来年度の教科化に向け、ここに児童の主体性を！(詳しくは後ほど、「別添資料2」で)

錦町アート



児童の主体的な活動と「発信」をゴールに地域とさらにかかわるようになるように